令和８年度（2026 年度）　事業報告書

「北海道つながる学びフォーラム 2026」

事業の内容

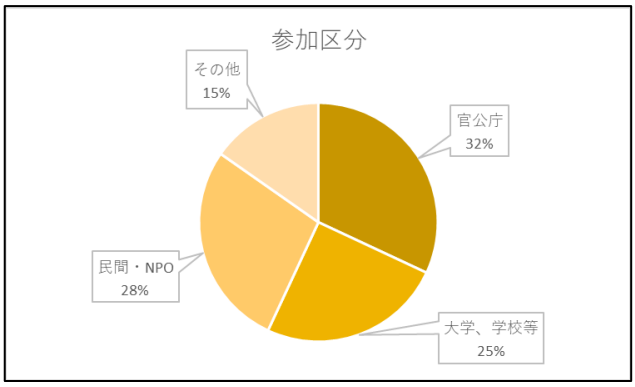
1　日　時　令和８年 10 月 17 日（土）

2　場　所　北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）

3　参加者　72 名

内訳　対面参加　31 名

オンライン　41 名



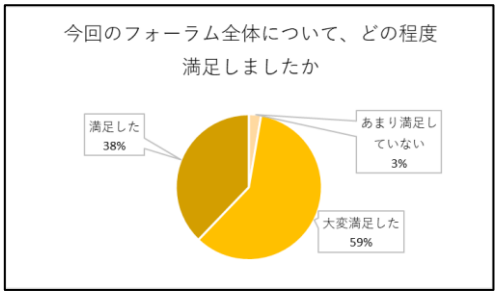
Ⅰ　プログラム

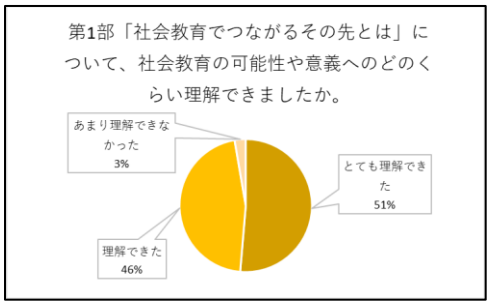
9:45	10:00	10:15		11:45	13:30		15:30	16:00		17:00
受付	開会	＜第１部＞ パネルトーク 「社会教育でつながる その先とは」 ※オンライン配信あり		ガイダンス ／休憩	＜第２部＞ 対話でつながる 「社会教育が未来を拓く」		閉会	移動	＜第３部＞ つながる学びラウンジ 「もっと聞いてみたいこんなこと！」	

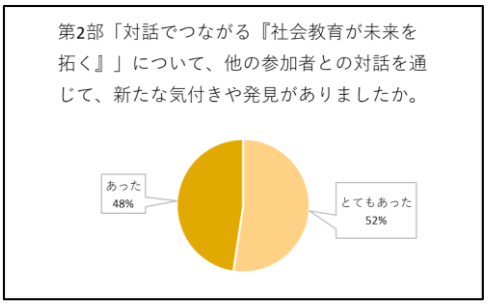
【第１部】 パネルトーク「社会教育でつながるその先とは」 【パネラー】 文部科学省大臣官房審議官　神山　弘　氏 文教大学教授　青山　鉄兵　氏	【内容】 社会教育士の称号取得者数が増加する中、社会教育士が互いに学び合い、地域課題の解決に資する活動を展開するための社会教育人材のネットワークを形成していくことは、今後、社会にどのような変化をもたらすのか、対面とオンラインにより、双方向のやりとりによって、考えることができました。また、社会教育士は「みんなで同じ報告を向く」というよりも、「様々な分野で人と人をつなぎ、専門分野で活躍できること」が重要であることが分かりました。
【第２部】 対話でつながる「社会教育が未来を拓く」	【内容】 パネルトークの後、４人のグループに分かれ、社会教育でつながった先の地域の未来を考えるワークショップを実施しました。社会教育人材がつながり、学び合うことで、どのような未来があるのか、グループのメンバーを変えながら、参加者は様々な方との対話を楽しみながら、自分の考え方を再認識することができました。
【第３部】 つながる学びラウンジ「もっと聞いてみたいこんなこと！」	【内容】 会場を変え、神山氏、青山氏に社会教育士が事業や活動の運営に当たっての悩みごとや困りごとについて相談する場を設定しました。資金面の工夫や地域の人材不足など、様々な議論が進む中で、参加者同士で課題解決に向けた意見交換なども行うことができました。 地域において、社会教育士が複数いるところは少ないため、普段の活動について情報交換をすることができました。

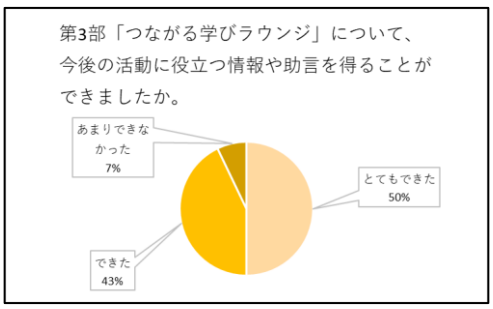
Ⅱ　アンケート結果

今回のフォーラム全体において、「大変満足した」「満足した」と回答した方は、97%となり、対面及びオンラインにおいても、多くの参加者の満足度が高い結果となりました。第1部では、パネルトークから、社会教育の可能性や意義について、「とても理解できた」「理解できた」と回答した方が 97%となり、第2部においては、他の参加者との対話を通じて新たな気付きや発見が「とてもあった」「あった」と回答した方が 100%となりました。また、第3部では、今後の活動に役立つ情報や助言を得ることが「とてもできた」「できた」と回答した方が 93%となり、本フォーラムにおけるテーマに合致した成果となりました。









Ⅲ　参加者の声

○北海道において、社会教育を盛り上げていこうとの意気込みを感じました。これから少しずつでも前に進めることができればいいなと思っています。

○自分がいつも疑問に思っていることが、たくさん話されて、興味深かったです。お話を聞いて、社会教育士という称号を持っていることに誇りを持ちたいと改めて思いました。

○やはり学びは常に継続させる必要があります。それを使って自分が活動している地域としっかりとつがれるように前向きに進みます。

○実践の積み重ねが、いつか誰かの、「このまちって、いいなぁ～」という思いにつながってくれたら、私はうれしいと思います。

○運営側の方々の熱意がそのまま、反映された研修内容になったのではないでしょうか。本当に素晴らしい気づきをいくつもいただきました。



Ⅳ　担当者からひとこと

今回のフォーラムは、旧赤れんが庁舎を会場とすることで、北海道の明治からの歴史と社会教育を拓いていく社会教育士の「思い」をオマージュしたものにしたいと考え、「社会教育が未来を拓く」というサブテーマを設けました。

近年、社会教育士が全国的に増加しており、その人材同士のつながりから、様々な活動が展開されています。今回は、道内各地はもとより、本州からの参加があり、各地で活躍される社会教育士の「思い」も共有することができました。

また、このフォーラムを通して、社会教育主事講習における「つながり」から、さらに地域課題の解決に向けた取組のための「つながり」として、より機能的なネットワークが形成できたのではないかと感じます。

